

英語の節・文連結を表す諸構文に関する記述的研究

A Descriptive Study on a Linkage of Clauses and Sentences in English

大竹 芳夫
OTAKE Yoshio

This paper gives a descriptive analysis on a linkage of clauses and sentences in English. We have shed light on the characteristics of a linkage of clauses and sentences including “*as a matter of fact*,” “*as + Subject-Auxiliary Inversion construction*,” and post-modifying noun phrases. The semantic and functional characteristics of these three expressions have been borne out by observing naturally occurring data.

Keywords : 文連結, 接続表現, 倒置構文, *as a matter of fact*

0. はじめに

英語の談話を観察すると、節や文を連結する際にさまざまな接続表現を活用していることがわかる。本稿では節・文連結を表す諸構文を取り上げ、実際の例文を観察しながらそれらの特性を実証的に明らかにするとともに、英語の節や文を連結する仕組みについて考察する。

1. 先行情報にかかわる未確定の情報を事実認定してつなぐ: *as a matter of fact*

話し手がある情報を事実認定したうえで談話に積極的に導入する表現に*as a matter of fact*がある。*as a matter of fact*は事実認定を受けていない情報や聞き手には容易には知りたくない情報を事実として先行する情報につなぐ点に特徴がある。*as a matter of fact*が発話される契機となる先行情報は話し手自身による提示(=1a)であっても、聞き手による提示(=1b)であってもよい。以下、用例中の下線および波線表示は筆者による。

- (1) a. “[...] People have weird ideas about the size of my income, but as a matter of fact I don't get that kind of fee very often.[...]” ([...] 人々は私の収入の多さ

を奇妙に考えていますが、実は私はそのような報酬をしょっちゅう受け取っているわけではないんです。[…])

(B. Halliday, *Murder Takes No Holiday*, 1961)

- b. “Did Ginger make food this weekend?” Tracy asked. “As a matter of fact she did,” Kim said. (「今週末、ジンジャーは食事を作りましたか？」とトレーシーが尋ねた。「実は作ったんです。」とキムが言った。)

(R. Cook, *Toxin*, 1999)

話し手がas a matter of factを用いて情報を事実認定して談話に積極的に導入するのは、聞き手が事実認定できない情報を事実として確定する場合と、先行情報に事実を追述することにより正確な事実として確定して聞き手に披瀝する場合である。

まず、聞き手が事実認定できない情報を事実として確定する場合に用いられるas a matter of factの用法がある。この用法のas a matter of factは、推論をめぐらせながらある情報を確定しようとする聞き手の確認に対して話し手が事実を披瀝して答えるような場面や文脈でしばしば用いられる。(2a-c)ではI take it, I guess, I betを用いて未確定の情報を確認する相手に対して、話し手はas a matter of factを用いて相手の推論とは異なる真実を明かしたり(=(2a-b))、相手の推論を事実として認定している(=(2c))。

- (2) a. “He told you about Dolly's episode, I take it.” Des kept her face a blank. “As a matter of fact, he didn't.” (「彼はあなたにドリーのエピソードについて話したんですね。」デスは無表情のまま言った。「いや実は彼は話さなかったんです。」)

(D. Handler, *The Cold Blue Blood*, 2002)

- b. J. Walter Weatherman: […] I guess you'll be scaring children yourself now.
Buster: As a matter of fact, I won't. […]

(J. Walter Weatherman: […] 子供たちを怖がらせるんだな。

Buster: ところが実はそういうことはしないんだよ。[…])

(Foxテレビドラマの台詞: *Arrested Development*, 2005)

- c. Sharona Fleming: I bet you had lots of notes from your doctor.

Adrian Monk: As a matter of fact, I did. I had a whole, separate binder.

(Sharona Fleming: 医師からもらったたくさんメモをあなたは持っていたに違いないわ。

Adrian Monk: 実はその通りなんだ。セパレート・バインダー丸一冊分になったよ。)

(USA Networkテレビドラマの台詞：Monk, 2002)

次に、先行情報に事実を追述することでより正確な事実として確定して聞き手に披瀝する場合に用いられるas a matter of factの用例を示す。as a matter of factを伴う(3a-b)では先行する相手の発話内容を受けてso do Iやso am Iという関連する事実が追述されているし、(3c)では先行するbefore（前に）を補足説明するThis morning（今朝）という実際の時間が示されている。

- (3) a. “I like it here,” Gigi replied. “As a matter of fact, so do I,” Evan said.
(「私はここが好きだ。」とジジが答えた。「実は、私もなんだ。」とエヴァンが言った。)

(S. Woods, *Loitering With Intent*, 2009)

- b. ‘I’m getting a little drunk,’ I said. ‘Why not? As a matter of fact, so am I.’
(「少し酔っ払ってきたよ。」と私が言った。「そうよね。実は私も酔っ払ってきたのよ。」)

(D. Ambrose, *Coincidence*, 2002)

- c. “But I have seen these before. This morning, as a matter of fact, [···]”
(「でも、これらは前に見たよ。実は見たのは今朝なんだよ。[···]」)

(W.E.B. Griffin, *The Victim*, 1991)

さて、as a matter of factは、聞き手には容易には知りがたい事実や聞き手の誤解を解くような事実の披瀝を合図する。結果的に、しばしば聞き手を驚かす事実が明かされたり、話し手の知識の優越を感じさせる事実が伝えられる場合がある。そのため、as a matter of factは聞き手への配慮を表すような表現、つまり話し手の躊躇やためらいを合図する表現と共起することがある。(4a)では話し手がas a matter of factの後に休止を置いてためらいながら事実を披瀝しているし、(4b)では聞き手の無知をあげつらっているという含意を回避しながら事情説明を合図するIt's just thatに続けて話し手がas a matter of factを用いて実情を伝えている。

- (4) a. ‘I’m sorry. As a matter of fact …’ Ruth hesitated. ‘… I’m not sure that I can go.’ (「ごめんなさい。実は … 」とルースはためらいながら言った。「私は行けるかわからないんです。」)

(E. Rhodes, *Ruth Appleby*, 2014)

- b. ‘It’s just that … as a matter of fact, I’ve got a bit of news for you. I wanted

to tell you face to face, but …’ (「ただ、その … 実はちょっと知らせたいことがあるの。顔を合わせて話したかったんだけど、…」)

(M. Edwards, *The Arsenic Labyrinth*, 2007)

さらに、次の(5a-b)ではbelieve it or not (信じようと信じまいと) やYou might find this hard to believe (信じがたいかもしれないが) を伴ってas a matter of factが事実を積極的に伝えている。これらの用例では、聞き手が当該情報を事実として認定するかどうかは聞き手に任せるといふ話し手の態度が見て取れる。

- (5) a. As a matter of fact, believe it or not, I actually purchased my engagement lehenga from right here in Bahrain. (信じようと信じまいと、実は私はまさにここバーレーンで私の婚約衣装のレヘンガ [インドの民族衣装] を実際に購入したのです。)

(R. Barratt, *My Beautiful Bahrain*, 2012)

- b. You might find this hard to believe but as a matter of fact, you were my last client. (信じがたいかもしれないが、実はあなたは私の最後の依頼人だったのです。)

(P. Kerr, *Hand Of God*, 2015)

2. 倒置して文をつなぐ: as + {助動詞/be動詞} + 主語

主語は異なるが、主文と同じ内容をつなぐ表現にas + {助動詞/be動詞} + 主語の倒置構文がある。Swan (2005³)は(6)のas + {助動詞/be動詞} + 主語の倒置構文の例を挙げている。

- (6) She was religious, as were most of her friends. (彼女は信心深かったし、彼女の友達の大部分も同様だった。)

(Swan (2005³))

Swan (2005³)はas + {助動詞/be動詞} + 主語の倒置構文は文語体で用いられると説明する。しかし、実際には、Swan (2005³)の主張とは異なって主語の担う情報量が聞き手の記憶に負担にならないほど小さく、かつ直前の発話につなぐような場合には独立文として口語体でも用いられる。たとえば、(7a)では相手の直前の発話and so do Iに対して、話し手がAs do I(「私も好きです」)とつないで自分も相手と同じ気持ちであることを伝えている。また、(7b)では相手の直前の発話he is handy with a knifeに対して、As are you, Reine (「君もうまいよね、レーヌ」)とつないで相手に事実を確認している。

- (7) a. “[...] The girls like the pictures, and so do I.” “As do I,” Amyas said, appreciating his host even more. ([...] その女の子たちはその絵が好きだし、私も好きです。]「私も好きです。」とエイミアスは主人に感謝の気持ちをさらに込めて言った。)

(E. Layton, *Alas, My Love*, 2009)

- b. “[...] I already told you he is handy with a knife.” “As are you, Reine,” Charles said, on impulse. And watched her closely, waiting to see what she would say. “Handier than you know. [...]” ([...] 彼がナイフの扱いがうまいことはあなたにもう話したわよね。]「君もうまいよね、レーヌ。」とチャールズは思わず言った。そして彼女をじっと見つめ、彼女が何と言うのか確かめようと待っていた。「あなたが知っている以上にうまいわよ。[...]」)

(J. Rock, *The Eloquence of Blood*, 2011)

as + {助動詞/be動詞} + 主語の倒置構文にはさまざまな特徴が観察される。たとえば、同じく倒置構文であるso + {助動詞/be動詞} + 主語が先行する文にカンマを介してつながれるとき、andやbutなどの接続詞を伴うのに対して、as + {助動詞/be動詞} + 主語の倒置構文は接続詞を伴わない。これは、別の文にカンマを介してつながれるとき、soは副詞であるためandやbutなどの接続詞が必要であるが、asはそれ自体が接続詞であるためandやbutなどの他の接続詞が不要だからである。

- (8) a. She needed sleep and so did I. (彼女は睡眠が必要だったし、私も必要だった。)

(I. Andrews, *Magic Burns*, 2008)

- b. The one with the bow had another arrow out, but so did I. (弓を持ったやつがもう一本の矢を放ったが、私も矢を放った。)

(G. Wolfe, *The Knight*, 2005)

- (9) She was religious, {**and* / **but*} as were most of her friends.

as + {助動詞/be動詞} + 主語の倒置構文は文頭(=10a)、文中(=10b)、文末(=10c)の各位置に生じて主文とつながれ、主文主語とは異なる主語を立てて「～も同様である」という意味を伝える。

- (10) a. Like so many other young people, I had, over the years, various hobbies. As did so many children, I collected insects, read comic books, traded bubble gum cards, ran my Lionel electric trains and amassed a treasury of the

typical items that can so rapidly clutter up a child's bedroom. (他の多くの若者たちと同様に、何年にも渡り、私にはさまざまな趣味があった。多くの子どもたちと同じように、昆虫採集、読書、風船ガムカード交換、ライオネル電車模型走行、子ども部屋をすぐに散らかすようなお宝集めをした。)

(D. Glut, *I Was a Teenage Movie Maker*, 2006)

- b. He was taken, as were so many others, in the summer of 1940. (他の多くの人たちと同様に、彼は1940年の夏に連れて行かれた。)

(C. Armstrong, *Death's Head*, 1993)

- c. You have a destiny, as do I. We have no choice. (あなたには運命がある。私も同じである。私たちには選択意の余地がないのだ。)

(R.J. Sawyer, *The Terminal Experiment*, 2011)

さて、このようなas + {助動詞/be動詞} + 主語の倒置構文が主語を節末に移動して主文とつなぐのには理由がある。それは主文の主語とは異なるas節の主語要素に焦点を当てて互いの並列関係を示すため、文末焦点の原則に沿って節末位置に配置するからである。ただし、文のつながりを考えたとき、as節自体が文末に配置される場合であっても、as節は主文に付随する情報や補足的情報を追記するため、伝達の中心はas節内の情報ではなく、主文内の情報にある。たとえば、(11a)では主文の主語I(私)が悲しみに打ちひしがれていることが伝えられた後で、as節の節末に主語she(彼女)を配置しながら彼女も同じ気持ちであったことが補足情報として追記されている。(11b)では主文の主語Mr. Sinkar(シンカー氏)という具体的人物についての情報が伝えられた後で、as節の節末にhundreds of other workers(他の数百人もの労働者たち)というMr. Sinkar以外の労働者たちも同様であったということが付随する情報として追述されている。また、(11c)ではもっとも高い数値を示し、伝達価値の大きい黒人の子どもに関する情報が主文で伝えられた後で、それに続く数値を示すヒスパニックの子ども、白人の子どもについて併記されている。

- (11) a. I was heartbroken, as was she. (私は悲しみに打ちひしがれ、彼女も同じように打ちひしがれた。)

(*Chicago Tribune*, Sept. 8, 2007)

- b. After nine days in jail, Mr. Sirkar was deported, as were hundreds of other workers. (拘置所に9日留置された後、シンカー氏は追放され、他の数百人もの労働者たちも追放された。)

(*The New York Times*, May 19, 2015)

- c. In 2013, 71 percent of black children in America were born to an unwed

mother, as were 53 percent of Hispanic children and 36 percent of white children. (2013年、アメリカの黒人の子ども71パーセントが未婚の母の子どもとして産まれており、同様にヒスパニックの子どもも53パーセント、白人の子どもも36パーセントが未婚の母の子どもとして産まれていた。)

(*The New York Times*, March 12, 2015)

また、次の(12)では主文で彼のリトルリーグ優勝トロフィーがなくなっていたという伝達価値の高い情報が伝えられた後で、同じく部屋からなくなっていた写真が以前にあった場所についての記述が追記されて結果的に意味内容が豊かになっている。

- (12) Hunter moved his gaze over the room. His Little League championship trophy was gone, as was the picture that had sat front and, center on his dad's desk, of the two of them with the prizewinning fish at the Tarpon Rodeo. (ハンターは部屋を見渡した。彼のリトルリーグ優勝トロフィーはなくなっていたし、ターポン・ロデオでの入賞魚とともに父の机のど真ん中に陣取っていた写真もなくなっていた。)

(E. Spindler, *In Silence*, 2009)

as節はカンマを介して主文の後につながれ、文末位置にしばしば現れる。ただし、as節が文末に配置される場合であっても、伝達の中心は主文内の情報にあり、as節はそれに付随する情報や補足的情報をあくまでも追記する機能しかもたない。そのため、as節内の情報が後続する談話の話題となって話の筋が新たに作られることは通例ない。

3. 文を名詞句でつなぐ

次の例が示すように、先行する文をカンマ(=(13a))、ダッシュ(=(13b))、コロン(=(13c))、カッコ(=(13d))などを介して名詞句でつなぐことがある。

- (13) a. There wasn't a sound, a fact which only fanned his ever-building anxiety. (物音が何もなかった。そのことは彼の不安をさらに募らせるだけだった。)

(R. Cook, *Toxin*, 1999)

- b. There is no Glastonbury Festival this year — a fact that will, to be frank, be making the lives of about 120,000 people fairly bleak as summer approaches. (グラストンベリー・フェスティバルが今年は開催されない。これは、率直に

言わせてもらえば、夏が近づくにつれて約12万人の生活をかなりさびしいものにする必要があると思われる事実である。)

(*The Times*, April 13, 2006)

- c. A great deal of the work on Mrs. Dalloway was done in Virginia Woolf's new garden writing room at Monk's House, Rodmell: a fact which has clearly marked the book. (ダロウェイ夫人に関する多くの研究はロッドメルにあるモンクス・ハウスのヴァージニア・ウルフの新しい庭園を臨む書斎で行われた。これはその本を明らかに際立たせている事実である。)

(*The Sunday Times*, June 18, 2004)

- d. Homer sees war as miserable and humiliating, but he also sees it as glorious, the supreme expression of human greatness (a fact which Manguel does recognize). (ホメーロスは戦争を悲惨で屈辱的であると考え。しかし、彼は戦争を輝かしく、人間の偉大さの至高の表現であるとも考えている (それはマンゲルが実際に認めている事実である。))

(*The Sunday Times*, May 2, 2008)

さらに、先行する文に対して、ピリオドで独立した名詞句でつなぐ場合もある。

- (14) PERU is Portuguese for turkey. A fact which will hold you in good stead if you decide to apply for a job with Bernard Matthews. (PERUは七面鳥を表すポルトガル語である。これは、バーナード・マシューズ社七面鳥農場の仕事に応募しようと思うならば、大いに役に立つことになることである。)

(*The Times*, Sept. 16, 2004)

これらの名詞句は、先行する文が表す内容がどのような意味や重要性をもっているのかを聞き手に説明する機能を果たしている。これらの名詞句の直前に[and] this {is / was}を補うことで、先行する文とのつながりをよりはっきりと理解することができる。上記の(13)-(14)はそれぞれ次の(13')-(14')の省略形であると考えてよい。

- (13') a. There wasn't a sound, and this was a fact which [...].
b. There is no Glastonbury Festival this year — this is a fact that [...].
c. A great deal of the work on Mrs. Dalloway was done in Virginia Woolf's new garden writing room at Monk's House, Rodmell: this was a fact which [...].

- d. Homer sees war as miserable and humiliating, but he also sees it as glorious, the supreme expression of human greatness (this is a fact which [⋯]).
- (14') PERU is Portuguese for turkey. This is a fact which [⋯].

ただし、直前に[and] this [is / was]を介在させずに、(13)-(14)のように名詞句で先行する文を直接つなぐことにより、先行する文の内容に話し手が直ちに説明を加えていることが表出される。

先行する文を説明してつなぐこのような名詞句はa factに加えて、a possibility、a suspicion、an interpretationなどがある。

- (15) a. The \$3 billion figure assumes that investors get no interest for the money that they invested in the Madoff funds — a possibility that has infuriated many of the victims. (30億ドルという金額は投資家たちがマドフ・ファンドに投資した金からは利子を取らないことを仮定している。そして、このことが多くの被害者たちを激怒させてきた可能性である。)

(*The Times*, July 27, 2012)

- b. Yeats suspected that Wilson had talked to Sinclair, a suspicion that was confirmed when he discovered that Wilson had been negotiating on his own behalf with the agents acting for both the American and the Australian tours. (イエイツはウィルソンがシンクレアと話しをしたのではないかと疑った。その疑いをもったのは、アメリカとオーストラリアのツアーを代行する代行者たちとウィルソンが自らのために交渉してきたということをイエイツがわかったときであった。)

(N. Grene, *Irish Theatre on Tour*, 2005)

- c. A permanent provision of the Patriot Act, Section 214, has been used in the past to justify the bulk collection of metadata, an interpretation that a secret surveillance court blessed. Perhaps that interpretation will be resurrected in the future. (米国愛国者法第の条項214条はメタデータの膨大な収集を正当化するために過去に適用されたことがある。それは秘密監視裁判所が認めた解釈である。おそらく将来、その解釈は再適用されるであろう。)

(*The Atlantic*, June 1, 2015)

先行する文を名詞句でつなぎ、先行する文の内容の意味や重要性を説明するこのような用法は書き言葉で使用される。先行する文と名詞句とはカンマやダッシュでつながれるため、

回りくどくなく、簡明で直裁的な表現である印象を読み手に与える。

4. まとめ

本稿では英語の節や文を連結する3つの用法を取り上げ、それぞれの意味的、形式的特性を明らかにした。第一に、as a matter of factは事実認定を受けていない情報や聞き手には容易には知りがたい情報を事実として先行する情報につなぐ機能を果たすことを論じた。as a matter of factは、聞き手には容易には知りがたい事実や聞き手の誤解を解くような事実の披瀝を合図する。結果的に、しばしば聞き手を驚かす事実が明かされたり、話し手の知識の優越を感じさせる事実が伝えられる場合がある。そのため、as a matter of factは聞き手への配慮を表すような表現、つまり話し手の躊躇やためらいを合図する表現と共起することがあることを説明した。第二に、as + {助動詞/be動詞} + 主語の倒置構文が主語を節末に移動して主文とつなぐ現象を考察した。as + {助動詞/be動詞} + 主語の倒置構文は文頭、文中、文末の各位置に生じて主文とつなぐが、主文主語とは異なる主語を立てて「～も同様である」といった意味を伝える。as + {助動詞/be動詞} + 主語の倒置構文は主文に付随する情報や補足的情報を追記するため、伝達の中心はas節内の情報ではなく、主文内の情報にあることを確認した。第三に、先行する文を名詞句でつなぎ、先行する文の内容の意味や重要性を説明する用法について実例を挙げながら説明した。

*本研究は、平成27-30年度日本学術振興会科学研究費補助金基盤研究(C) 課題番号15K02592「日英語の文連結現象において指示表現と名詞節化形式が果たす役割に関する総合的研究」(研究代表者:大竹芳夫)の研究成果の一部である。

参考文献

- Biber, Douglas, Stig Johansson, Geoffrey Leech, Susan Conrad and Edward Finegan (1999) *Longman Grammar of Spoken and Written English*. Harlow: Pearson.
- Carter, Ronald and Michael McCarthy (2006) *The Cambridge Grammar of English*. Cambridge: Cambridge University of Press.
- Huddleston, Rodney and Geoffrey K. Pullum (2002) *The Cambridge Grammar of the English Language*. Cambridge: Cambridge University Press.
- Quirk, Randolph, Sidney Greenbaum, Geoffrey N. Leech and Jan Svartvik (1985). *A Comprehensive Grammar of the English Language*. London: Longman.
- Sinclair, John (2004) *Collins COBUILD English Usage for Learners*. Second Edition. Glasgow: HarperCollins Publishers.
- Swan, Michael (2005) *Practical English Usage*. Third Edition. Oxford: Oxford University Press.